

「幸せの四つ葉プロジェクト」は、幸せのシンボルとして知られる四つ葉のクローバーをモチーフにし、商品開発などを通じて障がいのある方への支援、新たな観光資源創出や中心市街地の活性化を目的として平成25年にスタートしました。

中心市街地の小学校の児童や障がいのある方への就労支援施設の利用者による商品開発や製造などを通して、継続できる事業として広がりをもせています。



伊良湖「恋路ヶ浜」にある「幸せの四つ葉のクローバー発祥の地」

## 伊良湖岬“恋路ヶ浜”と中心市街地を結ぶ「幸せの四つ葉プロジェクト」

平成28年度は、田原中部小学校の特別支援学級の児童と先生による新たな商品開発等が行われており、年明けにはお披露目できるように進められています。

また、4月28日を「よつばの日」として「よつばの日イベント」が、中心市街地の25の協力店とともに、4月から5月にかけての約3週間、中心市街地を中心に開催され、多くの人が田原の街なかにお越しになりました。

今回は、商品開発や継続されている「幸せの四つ葉プロジェクト」の活動内容について、田原中部小学校の特別支援学級、NPO法人気分爽快、田原授産所のそれぞれの代表の方のお話や活動の紹介、はなとき通り限定で開催される蔵王山のイベント情報を交えながら「幸せの四つ葉プロジェクト」の今をお伝えします。

幸せの四つ葉のクローバー発祥の地の伊良湖岬「恋路ヶ浜」と中心市街地を結ぶ「幸せの四つ葉さがし」と田原の「街歩き」を合わせることで生まれる中心市街地の活性化と賑わいの創出（まちおこし）を軸とした、たくさんの人々が参加する活動にこれからも目が離せません。

### 幸せの四つ葉プロジェクト「パワースポットのご紹介」 はなとき通り「天使のハッピースペース」



はなとき通り、富貴屋とシアルルの間

田原中部小学校の2年生が授業の一環として行っている「夢育活動」。この授業がきっかけとなり、2年前に「天使のハッピースペース」が誕生しました。四つ葉のクローバーのお手入れや飾りつけ、花苗の植え込みなどを小学生が商店主と一緒に行っていきます。

現在では、買い物客の憩いの場だけでなく「四つ葉」「天使」にちなんだ幸せの願掛けをする場所として話題になっています。





作り手も手に取った人も、感じる幸せ。『幸せの四つ葉プロジェクト』だからできる相乗効果

四つ葉関連の製品を生産している様子



豊富な幸せの四つ葉プロジェクト製品



● 鎌田博幸さん(田原授産所 施設長)

約 70 名の利用者の個性に合わせ、5つの作業班で生産活動を実施。四つ葉製品の他、竹炭製品、クッキー、縫製品など市内の会社からの受注にも対応している。  
▶ 問合せ先 Tel.0531-23-7513

平成25年度からスタートした商品開発と生産も、早いもので4年目を迎えました。製品数は、現在10数アイテムを数えるまでになりました。毎年、思考を凝らした商品開発を行い、パッケージングまで責任をもって生産。授産所スタッフが市内イベントに参加し、プロジェクトの周知活動を行っています。一番人気は「幸せの四つ葉ストラップ(=写真)」。今年はマグネットの商品を開発し、アイテムがさらに充実。生産する利用者も、買物の時に自分の作った商品が販売されている様子を見ることができ、「やりがい」を持つことができ、「四つ葉製品を生産する励みにもなっています」。



田原のまちなかで見かけて実感する『四つ葉』栽培で届けられる『小さな幸せ』



プランターで栽培される四つ葉のクローバー



● 小林明夫さん(NPO法人気分爽快 代表)

四つ葉の栽培を初めたのは5年ほど前、本腰を入れ始めて、まだ2年ほど。「四つ葉のクローバー」が事業として継続できて嬉しいと語る。  
▶ 問合せ先 Tel.0531-27-6377

就労支援施設のやまぶきハウスは、サラダ野菜の水耕栽培を核とする農業に取り組んでおり、そのハウスの一角で、四つ葉のクローバーを栽培し、出荷しています。四つ葉のクローバーの商品としての認知も広がりを見せ、中心市街地はもちろん、遠くは神奈川県へも出荷されています。極力、農薬を使わないよう心がけているため、病害虫にはいつも悩まされています。また長雨などで日照がないなど、気候の変動にも左右され、栽培には気を抜けません。より多くの人に、小さな幸せを届けられたらと、利用者と共に通年の出荷が維持できるよう努力しています。





子どもたちができることを授業の一環に「四つ葉」が開く、幸せの可能性



商品開発中の紙すきの四つ葉のハガキ



●伊藤映江先生(田原中部小学校)

子どもの「夢育活動」のミサンガ作りをきっかけに幸せの四つ葉プロジェクトを知る。特別支援学級の授業に取り入れるためにと四つ葉を使ったハガキの商品開発をスタートさせた。

田原中部小学校の特別支援学級の生活単元学習の中で、児童が取り組んでいるのは、贈る人も受け取った人もうれしくなる「四つ葉のハガキ」作り。

4学級の10人で、牛乳パックを使用した紙と色紙で手作りしています。「手先を動かす、計量カップの目盛りを読む、ミキサーをかける時間を確認するなど、子どもにとってよい勉強になります。できたハガキを使ったり、友達にあげたりすることで、作るこの喜びを感じ、商品化に挑戦することの原動力になっています。」と商品が店頭にお目見えする日も近いです。



幸せの四つ葉プロジェクト「この時期にうれしいプレゼントー」蔵王山展望台で「合格しおり」を先着50名様に進呈



最近、パワースポットとして注目されている蔵王山。手にハートを射抜く弓矢を持つ愛染明王は、縁結び、恋愛成就、家内安全、商売繁盛、合格祈願など、多くの人々から信仰されています。そんなパワースポットから朗報！12月23日(祝・金)の午前10時から、受験シーズンの本格的な到来前に、愛染明王で合格祈願のご祈禱をした「合格しおり」を先着50名限定に無料でプレゼントします。また、配布開始日には、葉っぱのほとんどが四つ葉以上になる希少なクローバーの生葉もプレゼント！8合目にある愛染明王への願掛けも忘れずにGO。



●蔵王山展望台

田原市街地を一望できる展望台には、市外や県外からの来訪者が多く、夜には夜景を楽しむ人々で賑わいをみせる。これからは富士山がよく見られる季節となり楽しみも多い。

▶問合せ Tel.0531-22-0426

街なかの元気印、発見！

## 大切な経験をスポーツを愛する田原市の人々のために

ふなき たつや  
ふなき鍼灸接骨院 舟木 達哉さん



### ■柔道整復師になるまで

ふなき鍼灸接骨院を今年の9月に、はなとき通りに開院した舟木達哉さんをご紹介します。舟木さんは、豊橋市で昭和47年に生まれ育ちました。高校在学中に結成したバンド活動を続け、アルバイトをしながら名古屋を中心に、時には東京でのライブ活動に没頭していたそうです。しかし、23歳の時

### ■フェニックスとの出会い

就職した鍼灸整骨院の近くで、バスケットボールリーグの浜松・東三河フェニックスが練習していた関係で、時々選手が来院し、治療を担当していました。4年程前に、フェニックスの練習場所に直接出向いて治療をするこ

にバンドが解散したため、道路舗装の切断の仕事に従事することになりました。10年経った頃、元々武道の経験があったことから、働きながら名古屋市にある柔道整復師の専門学校に3年間通い、国家資格を修得しました。そして、豊川市にある鍼灸整骨院に就職したのです。



### ■症状にあわせた治療を

まず、ケガをしない様な体づくり、次に、残念ながらケガをしてしまったも、できるだけ早く競技復帰でき、ケガがもとで選手を辞めることのない様に治療したいとのこと。ケガを治すといっても、痛いところを直接治療するだけでなく、全身のバ

ふなき鍼灸接骨院



住 田原市田原町築出 57-77  
電 0531-26-9045  
営 9:00 ~ 12:00  
15:00 ~ 20:00  
水、土は9:00 ~ 12:00のみ  
休 日、祝、水・土午後  
P 6台(他共有スペースあり)



### ■田原市での開院のきっかけ

フェニックスの選手だけでなく、豊川高校の運動部選手のケア、プロゴルファーのトレーニングのフォロー等を経験し、将来のある小中学校の子どもたちのスポーツ傷害治療の一助になりたいと考えました。田原市では、ソフトテニスや陸上が盛んで、小中学校の子どもたちが活躍しており、数多くのスポーツ選手を見てきた今までの経験を活かすことが出来ると考え、田原市での開院を決断しました。

また、舟木さんは日本柔整外傷協会会員で、全国の協会員の治療家仲間と常に情報を交換しているため、様々な症例に対応する事が可能だそうです。交通事故の治療にも対応しますので、事故にあっ

てお困りの方も来院ください。

### 田原市中心市街地の活性化に参加しませんか

#### 参加ボランティア募集

現在、「まちなか賑わいづくり実行委員会」では、賑わいイベントのボランティアを大募集。ミーティングからの参加やイベント当日だけの参加でもOKです。

- 資格/田原市内在住の方もしくは在勤の方
- 年齢/不問
- 参加内容/賑わいイベントのスタッフ
- 問合せ先/株式会社あつまるタウン田原 TEL.0531-24-2345